

## 小学校や各地での「ゆめはく」によるアウトリーチ展示 よばればどこへでも！ フットワーク軽くいざ出発！

2012年の導入以来、移動展示車「ゆめはく」は、主に小学校や各地の施設を巡りアウトリーチ活動を行っています。ゆめはく内外には、生きている昆虫やさわれる化石などの展示が『基本セット』が配置されています。しかしこのセットは固定化されているわけではありません。実施先の要望に合わせてそのつど、柔軟に組み合わせ、調整しています。

また、2019年度からは日本教育弘済会兵庫支部の協力を得て、「小学校キャラバン」を年間10件ほど実施しています。その際、研究員と生涯学習課の指導主事がひとつのチームを組み、受入れ先の学校の担当者と相談しながら、アンモナイトレプリカづくり、恐竜、校庭の植物、石ころしらべ、イヌワシなどの授業を実施しています。加えて、ゆめはく展示は多くの児童にふれてもらえるように工夫しています。

学校だけではなく、各地の社会教育施設などのイベントへの出展の要望が多いのも、ゆめはくの特徴です。また、ショッピングモールやサービスエリアなどでも実施しています。

2020-21年度には新型コロナの影響で、各地からの



1. 小学校でのキャラバン(姫路市立播磨西小学校 2020年10月) 2. 社会教育施設でのキャラバン(淡路青年交流の家 2021年10月) 3. サービスエリアでのキャラバン(宝塚北SA 2019年3月) 4. やしるショッピングモールBioへの出展(2021年10月)

キャラバンの要請は大きく減少しましたが、小学校キャラバンは堅調でした。バスによる校外学習が行えなくなったため、校内での「キャラバン」実施を希望されたことが多かったようです。今後の課題は、さらなる要望増に応えるためのコンテンツの充実や人員確保などの対応を考えなければなりません。

## 「そとはく」「えんがわミュージアム・プロジェクト」 そとで過ごし、遊ぶきっかけを提供し 子育てを支援する

「そとはく」は、「そとを楽しむ博物館」として2018年から活動を開始しました。コンセプトは、『“そと”で過ごす。』です。外で過ごす場づくりを通じ、身の回りの身近な自然に目を向けることを目指しています。私たちが準備するものは、絵本やテント、簡単なビンゴゲーム程度。来館する人もまちで遊んでいた子どもも、思い思いに外で過ごしてくれています。また、三田市の子育て支援施設「ふらっと」と連携し、毎週水曜日に「おでかけふらっと」として活動いただいています。コロナ禍においても、屋外での活動として安心して過ごせる場所を提供することができ、地域の子育て層への支援につながっています。

一方、ひとはくに隣接する「深田公園」では2020年度より「えんがわミュージアム・プロジェクト(春～秋に月1回)」を実施しています。深田公園には森林、草地、水辺など多様な自然が残されており、昆虫採集、植物観察といった体験型プログラムがこれまでに数多く実施されてきました。こうした機会をさらに増やすために、公園と直結する博物館1階



1. そとはくの様子。思い思いに外で過ごせる空間づくり 2. ビンゴをもらって、普段とは違う芝生使い。いつもよりも芝生をまじまじ 3. えんがわミュージアム・深田公園における昆虫採集 4. えんがわミュージアム・ピロティを活用した可変式の滞留空間

の縁側の空間(ピロティ)を活用し、生きものと親しみきっかけづくりの場を提供。採集道具の貸し出しや生きものの観察を行っています。今後も深田公園の自然を活かしたプログラムの充実化を図っていく予定です。

## ひとはくセミナーの人づくり

### 研究員たちと「本気で学べる」 特別な時間を

「ひとはくは生涯学習を応援します」を合言葉に多様なセミナーを実施しています。ひとはくセミナーは、「本物との出会い」「リアルな体験」「多様なものの見方」「実践力」「専門性」といったキーワードにこだわりながら人づくりを進めていきます。ここでは、その中から最近10年間で複数回連続で実施した特徴的なセミナーを紹介します。

[カッコ内は研究員名と実施年]

#### ● 修了者がグループを形成し、その技術を活かす事業実施につながった講座

- ・ユース昆虫研究室 [八木/2001-2022]
- ・石ころクラブ [先山/2007-2016]

#### ● 研究員の技術を伝授する講座

- ・火山灰を調べる [加藤/2013-2017]
- ・魅せる標本づくり隊—植物と昆虫のすてきな展示づくり [高橋・八木/2014]
- ・シダの標本づくりと分布図 [鈴木/2018-2022]
- ・魚の透明標本をつくる [高橋/2019,2020,2022]
- ・雨庭のつくりかた [高田・福本・橋本・黒田/2022]
- ・Rで学ぶデータ解析 [京極/2021,2022]



1. ユース昆虫研究室(2022年4月播磨中央公園) 2. ひとはくアカデミック・ステイ in 但馬(2022年5月香美町小代区)

#### ● 専門的テーマを追究する講座

- ・恐竜・生命史フィールド科学 [地球科学研究部/2018,2020-2021]
- ・公園に問われていることゼミナール [環境計画研究部/2018]

#### ● 生態学基礎講座(2017三橋)

- ・ひとはく植生学講座 [橋本・石田・黒田/2021,2022]
- ・公園に問われていることゼミナール [環境計画研究部/2018]

#### ● 研究員が地域に出かける講座

- ・都市の歩き方 [田原/2002-2017]
- ・多様性を知る [小館/2010-2022]
- ・ひとはく博士と行く八チ北高原昆虫サマースクール [八木 他/2014-2016]
- ・海の生きもの調べサマースクール in 家島 [和田/2017,2018]
- ・化石発掘調査アカデミックキャンプ [池田/2018-2020]
- ・ひとはくアカデミック・ステイ in 但馬 [池田・石田・布野・生野/2022]

## 開館25周年記念スペシャルセミナー

### 通常非公開施設を特別に公開し、 紹介する

2017年度にひとはくは、開館25周年を記念する様々な事業を実施しました。そのひとつが「開館25周年記念スペシャルセミナー」です。この事業では、ひとはくの最も重要な施設である収蔵庫(通常非公開)を特別に公開するセミナーを実施しました。セミナーのタイトルは「お見せします人博のレガシー 5XGo」で、実施回数は9回。ひとはくの4大収蔵庫(生物系収蔵庫、地学系収蔵庫、液浸系収蔵庫、環境系収蔵庫)を日替わりで公開し、収蔵されている貴重な標本・資料を数多く紹介しました。

また、スペシャルセミナーでは、ジーンファームと呼ばれる非公開施設の特別公開も行いました。セミナーのタイトルは「ジーンファーム見学会—講義と観察—」です。ジーンファームは「絶滅に瀕している希少な野生植物の保護」などを目的とした施設です。ひとはくの重要機能のひとつであるジーンバンク機能はこの施設によって支えられています。セミナーは全部で9回実施しましたが、テーマとした野生植物は毎回異なります。例えば、1回目はオキナグサ、2回



1. 生物系収蔵庫に収蔵されている動物の標本 2. 地学系収蔵庫に収蔵されている動物化石の標本 3. ジーンファームの中にあるガラス室とガラス温室 4. ジーンファームのガラス室で育成中の野生植物

目はカザグルマ、3回目はサツキを取り上げました。いずれも兵庫県では絶滅危惧種に指定されています。